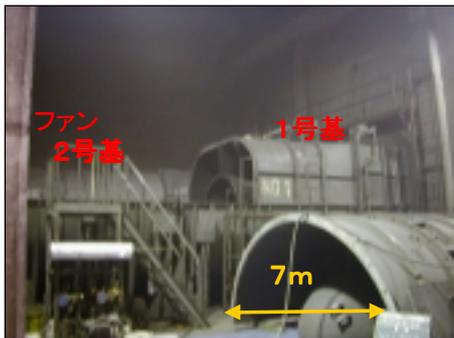




魚見山トンネル換気設備整備工事

魚見山トンネルは、施工されて今年で56年目を迎えます。

魚見山トンネルの中央部には自動車の排煙によって汚染した空気を強制換気する地下換気室がもうけられています。ここでは斜坑を利用してトンネル内の汚染空気を吸引排気する方法（立坑排気縦流式）を採用し、送風機2台（3150）を使い、トンネル内を通る車の台数に応じて換気量を自動的に調整する制御装置にて換気をおこなっています。



魚見山トンネル換気設備室内の様子
11m×22mもの広さがあります。



魚見山山腹には大きな排気口が設置されています。



国土交通省
広島国道工事事務所
呉国道出張所
呉市広本町
1丁目5-33

TEL 0823-73-4798
FAX 0823-73-9414

魚見山トンネルに送風機が設置されたのが昭和40年、老朽化に伴いこれまでも約14～5年ペースで魚見山トンネル換気室内の送風機の分解整備及び機器部品の更新をおこなってきました。

その他トンネル内の内装板は年に2～3回の清掃をおこなっており、トンネル内の煤煙濃度を抑えるよう運行しています。

魚見山隧道のあゆみ

軍都広島と軍湾呉を結ぶ32号（現在の国道31号）の魚見山隧道は昭和16年に着工、20年1月には戦局の悪化により工事は中断し、海軍の地下工場として利用され、そのまま終戦をむかえました。

原爆の都市広島と戦災の都市呉市の復旧のため両市を結ぶ32号国道の整備が急がれ、昭和21年工事を再開し、昭和22年12月に完成しました。



着工当時の吉浦側抗口

地質は花崗岩ですが、吉浦町側に小範囲の断層破碎帯があり、呉市川原石右側に250mの細い亀裂がありました。



貫通式（昭和18年1月27日）



呉市海岸側



連合軍を招いての開通式
（昭和22年12月）

延 長 : 860m
有効幅員 : 9m80cm
有効高 : 4m50cm
線 形 : 直線
総工事費 : 15,000,000円
工 期 : 4年6ヶ月
労 力 : 延人員343,000人